

シンポジウム開催概要

1 開催目的

淀川水系流域委員会による中間とりまとめがまとまったことを契機に、シンポジウムを開催することによって、広く流域住民に淀川水系流域委員会の活動や中間とりまとめの内容について知ってもらい、私たちの生活を支えている淀川水系について考えていただく機会を提供する。

2 概要

シンポジウム名称 : 淀川水系流域シンポジウム

テーマ: わたしたちが変える「琵琶湖・淀川の未来」

主催 : 淀川水系流域委員会

日時 : 2002年6月23日(日) 14:00~16:30(開場13:30、途中10~15分休憩)

場所 : 京都会館第二ホール

参加人数:(目標)400~500人

プログラム

あいさつ 芦田 和男氏(淀川水系流域委員会委員長)

淀川水系流域委員会からの報告

寺田 武彦氏(委員会委員・淀川部会部会長) 約15分

パネルディスカッション 約120分(途中休憩10~15分)

パネリスト : 遙 洋子氏(タレント)

池淵 周一氏(委員会委員・猪名川部会部会長代理)

嘉田 由紀子氏(委員会委員・琵琶湖部会委員)

川上 聡氏(委員会委員・淀川部会委員)

コーディネーター: 近藤 三津枝氏(ジャーナリスト)

併設パネル展示

淀川水系の現状を示す写真、図などを解説付きでパネル展示する。パネル作成にあたっては、委員・河川管理者からの提供資料や過去の会議資料を活用する。

3 一般への広報について

事前の広報(参加募集)

新聞広告

5大紙(朝日・毎日・読売・日経・産経) 地方紙(京都・神戸・奈良・中日・伊勢) に掲載。対象エリアは京都、大阪、滋賀、兵庫、奈良、三重とする。また、シンポジウム開催地である京都では、リビング京都にも掲載。

チラシ送付(今までに流域委員会に関わりがあった方、委員からの紹介者など)

チラシの設置(ニュースレター設置先、関連イベント、公共施設、大学等)

報道関係者へのチラシ送付、電話等による呼びかけ

その他(ラジオでの案内、ホームページ等での案内など)

事後広報(結果報告)

新聞広告(採録記事を掲載) 流域エリアで最大の購読数である読売新聞に掲載

シンポジウム結果をNL的な小冊子としてとりまとめ、シンポジウム参加者やニュースレター設置先に送付

4 パネルディスカッション出演者プロフィール

<パネリスト>

遙 洋子（タレント）

大阪府出身。'86年のタレントデビュー後、数々のテレビ・ラジオ番組に出演。また、新聞にコラムを執筆するなど多方面で活躍している。'97年から3年間、東京大学で社会学を学び、その後著した「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ」がベストセラーに。その他の著書に、「介護と恋愛」「結婚しません。」「働く女は敵ばかり」「野球は阪神 私は独身」などがある。また、日経ビジネスで「働く女の眼」を連載。働く女性の立場から自分らしく生きることへの思いをストレートに語る姿勢が多くの人々に支持され、注目を集めている。現在のレギュラー番組は「2時ドキッ!」など。

池淵 周一（京都大学防災研究所 教授、附属水資源研究センター長）

兵庫県姫路市生まれ。工学博士。専門は、水文学・水資源工学。河川審議会、国土審議会、国会等移転審議会などの専門委員を歴任。現在は、土木学会水理委員会委員、水文・水資源学会理事、国土交通省近畿地方整備局紀の川流域委員会、九頭竜川流域委員会委員などを兼務。著書に「水資源工学」などがある。前京都大学防災研究所所長。

嘉田 由紀子（京都精華大学教授、琵琶湖博物館研究顧問、水と文化研究会世話役）

埼玉県生まれ。農学博士。日本、アフリカ、アメリカなどの地域社会研究の中で人と水のかかわりを研究。環境問題は人間の社会や文化の問題と深くつながることを意識し、琵琶湖博物館の創設を提案。また、自ら、地域の人たちに教えてもらうフィールドワークを行うと同時に、地域の人たちと足下を見直す住民参加型研究を提案・実践している。著書に『水辺暮らしの環境学』『環境社会学』などがある。

川上 聡（川の会・名張、近畿水の塾理事、三重大学人文学部（地誌系）非常勤講師（流域社会システム論））

大阪市生まれ。平成1年「名張の川を守る会」（現「川の会・名張」）を結成し、水環境保全の市民活動を通じて自立した市民による流域社会の形成・上下流連携の実現・パートナーシップ型水環境改善事業等を進めている。木津川～淀川流域河川の水質・生物調査、シンポジウムの開催、国際交流、そして、川に学ぶ体験活動協議会理事として、川での環境・体験・安全学習の指導や講演活動を行っている。

<コーディネーター>

近藤 三津枝（ジャーナリスト）

兵庫県芦屋市生まれ。甲南女子大学文学部英文科卒業。経営・経済問題をテーマに、国内外のエクセレント・カンパニー、ベンチャー企業等の取材を続けている。中でもアジアへのアプローチはコンスタント。テレビの経済番組のキャスターを務める一方、新聞・雑誌などの対談、記事執筆を行い、幅広い分野で活躍。食通としても知られ、関西の食文化にも造詣が深い。現在、武庫川女子大学講師、関西経済同友会 都市再生委員会 副委員長、経済産業省 地球温暖化防止対策部会 専門委員、国土交通省 新・近畿長期ビジョン懇談会 委員、他多数。